

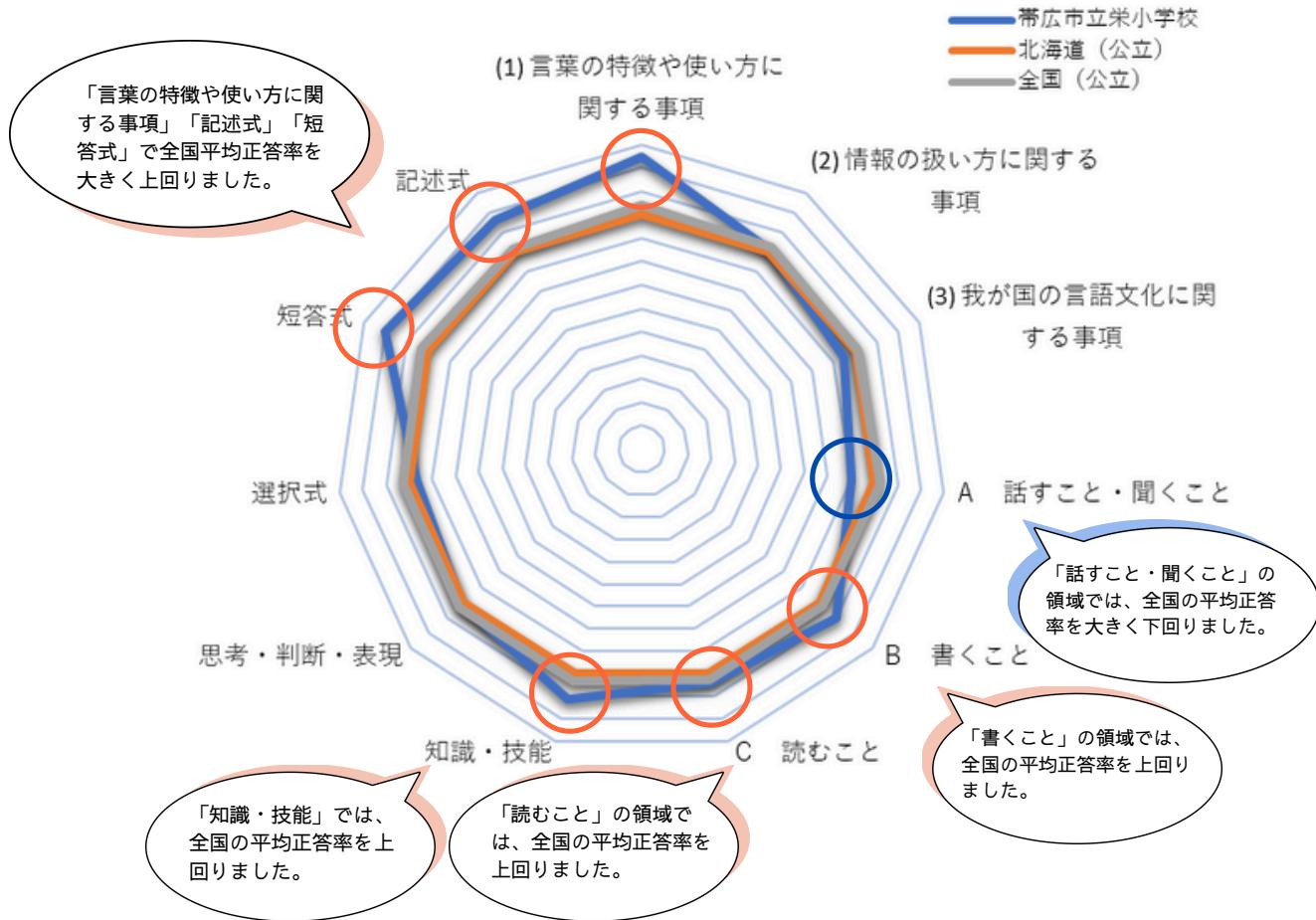
# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

## 帯広市立栄小学校

第6学年を対象に行われた全国学力・学習状況調査における本校の結果等について、その概略をお知らせします。本調査により測定できるのは子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部分であり、教育活動の一側面であることを踏まえながら、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきます。

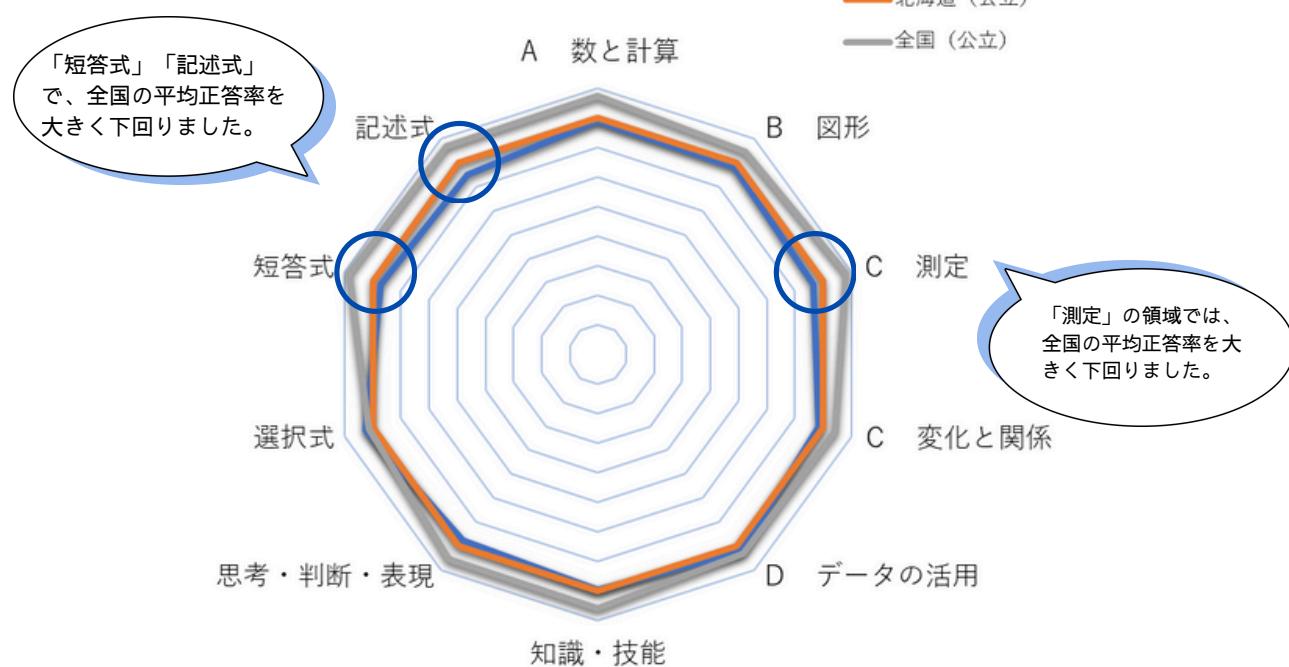
### 学力について

#### 国語



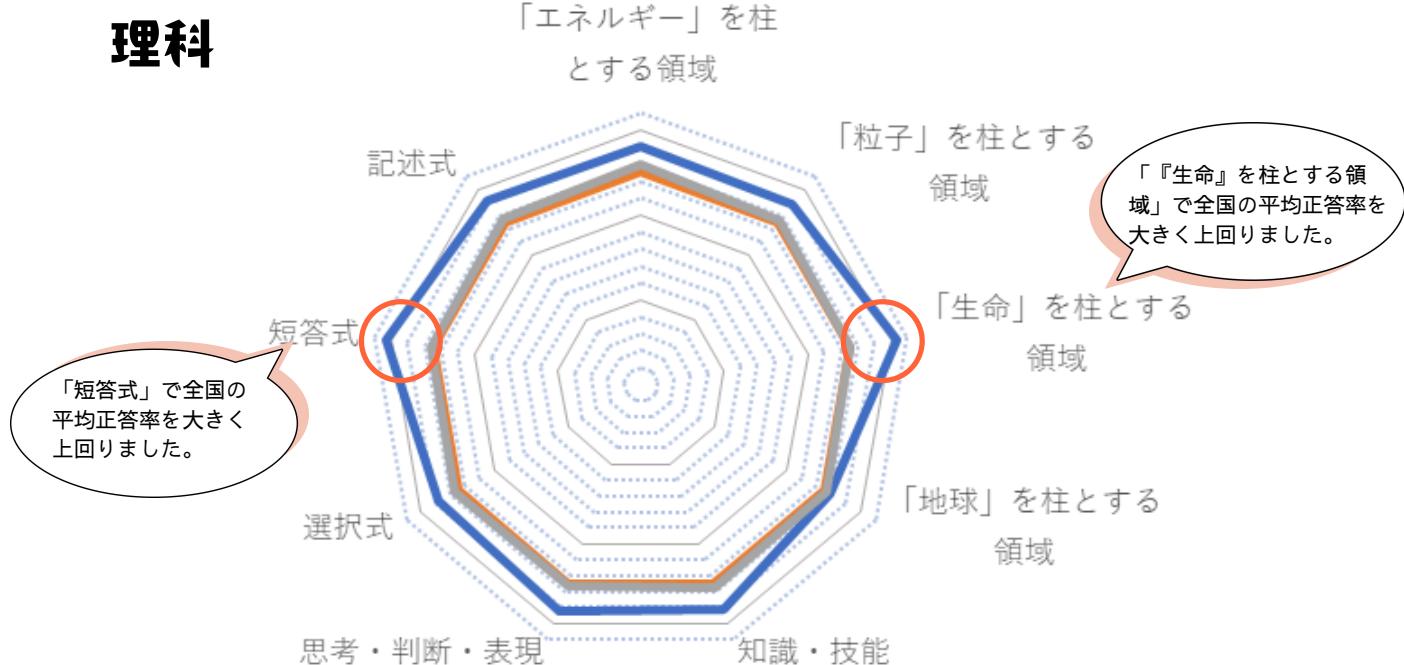
- 国語における本校の正答率は、全国平均を上回りました。全国平均を超える項目や全国平均に迫る項目も多く、学力が定着してきている様子がわかります。
- 日頃の授業の中で意図的に「書く」活動を取り入れていることや、一中エリア（一中・啓北小・北栄小・栄小）での共通した短作文の取組による効果で「書くこと」への苦手感は減り、無回答率は0%でした。
- 『話すこと・聞くこと』において正答率が全国・全道を下回りました。授業の中で、目的をもって相手に伝える場面を意図的に取り入れて「聞き手を意識した話す力」を育てるとともに、「話し方のモデル」や「話型」を示しながら経験を重ね、話す自信をもたせていきます。併せて、復唱や質問を取り入れながら聞く力を伸ばしていきます。

## 算数



- 算数における本校の正答率は、全国平均を下回りました。
- 習熟度別学習や放課後学習等の成果が表れ、正答数の少ない児童が大きく減少しました。
- 記述式の問題では、題意や条件をしっかりと読み取ることができるよう、問題をていねいに読むことを大切にします。
- 5年生までの学習内容の定着のために、宿題プリントや放課後学習等において復習に力を入れていきます。

## 理科

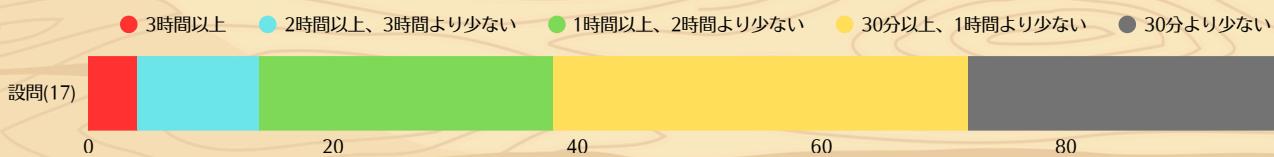


- 理科における本校の正答率は、全国・全道平均を大きく上回りました。
- 以前に比べて記述式の正答率が大きく伸びていることから考えると、記述式問題に慣れてきている傾向にあると言えます。問題に対するまとめを考えて記述したり、実験で得た結果から自分の考えをもち記述したりするなどの問題が出題されていることから、理科においても日頃から自分の考えを書くことに慣れさせて、抵抗なく記述できる力を付けていくことを大切にします。

## 学習状況について

### 平成7年度 全国学力・学習状況調査児童質問紙 (設問17)

「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。」

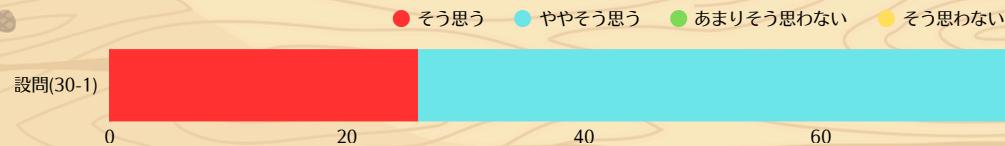


回答した6年生の家庭学習目標時間は「10分×学年+10分」で「70分」となっていますが、達成している児童は半数以下です。「30分より少ない」と回答した児童は特に、中学校で困らないためにも小学校のうちにしっかりと家庭学習の習慣をつけていく必要があります。

年3回の生活リズムチェックシートの取組を生かし、これからも学校と家庭が連携して子どもたちに家庭学習習慣を定着させ、学力向上を目指していきます。

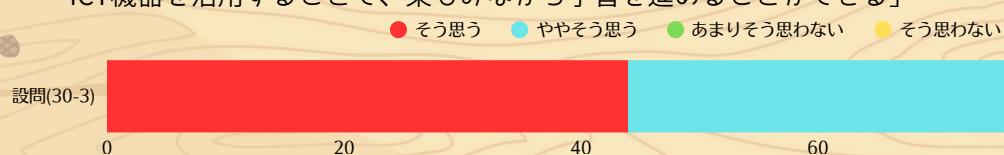
### 平成7年度 全国学力・学習状況調査児童質問紙 (設問30-1)

「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」



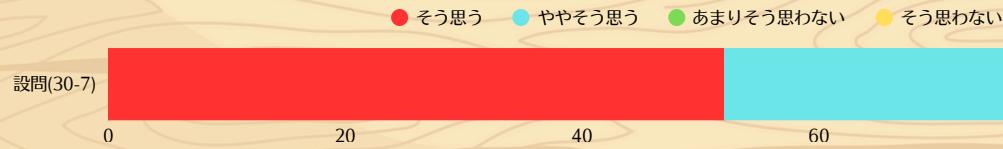
### 平成7年度 全国学力・学習状況調査児童質問紙 (設問30-3)

「ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」



### 平成7年度 全国学力・学習状況調査児童質問紙 (設問30-7)

「ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる」



本校は日本教育工学協会(JAET)により、「情報化の推進体制を整えて、教科指導におけるICT活用、情報教育、校務の情報化に積極的に取り組んでいる学校」として「学校情報化優良校」に認定されており、児童質問紙調査のICT活用に関連した設問ではどれも高い数値となっています。これらの結果は、ICT機器を中心とした協働的な学びが展開されている成果であると推測されます。本年度はロイロノートに変わりミライシード(オクリンクプラス)が活用されました。操作性など類似している部分もあり、さらなる実践の積み重ねが期待できます。

これからもGIGAチームを中心に、「情報活用の力の育成」「自己の個性を活かしながら、他者とのつながりも重視する学び」等につながるようなICTの活用を進めていきます。